

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

【氏名】 田中晶子

【所属】（助成決定時） 京都市立芸術大学（美術学部）非常勤講師

【研究題目】

戦後西ドイツと文化的アメリカナイゼーション—1960-1970年代の若者メディアの社会史—

【研究の目的】

本研究の目的は、20世紀の文化に大きな影響を与えたアメリカのソフトパワーを歴史学的に分析することにある。1960-70年代前半、西ドイツは高度経済成長期を迎え、ライフスタイルと文化の面で、大きな変貌を遂げた。本研究は、当該時期の西ドイツにおけるアメリカ文化の受容に際して、積極的な牽引者となった若者文化の形成と変化に焦点を当てる。

具体的な分析対象として取り上げるのは、1960-70年代に、若者自身によって制作・購読された、オールタナティブ・メディアと総称される文化雑誌・新聞である。この時期、都市の若者を中心に新しいライフスタイルや消費文化が展開し、同時代の社会運動と結びついた雑誌・新聞が作成された。これらのメディアは、政治・社会運動と青少年文化の重なりあう場所として、また、さまざまな新しいライフスタイルの可能性が提示される実験場として、社会的・文化的に重要な意味をもった。これらの多くは、同時代のアメリカ文化の影響のもとに成立しており、それゆえ、当該メディアを分析することで、西ドイツの若者文化に与えたアメリカのソフトパワーの受容の具体的な様相と特徴、高度経済成長期をつじた変遷を歴史学的に検証することが可能である。

【研究の内容・方法】

当該時期の西ドイツの若者によるメディア活動は、これまでメディア学・社会運動史の領域で研究されてきた。先行研究では、制作されたメディアの類型分類や、制作者の社会・政治思想の内在的な分析に光をあてたものが多く、これらのメディアを、文化的アメリカナイゼーションやライフスタイルの変化といった高度経済成長期の社会変化の文脈のなかで考察しようとする問題関心は希薄であった。

これに対して、本研究は、社会史的な問題関心と手法にもとづいた史料の選択と分析対象の設定に特徴がある。当該時期の若者文化を分析する際には、単に作成されたメディアのテキストに記された内容や概念を分析するだけでは不十分であり、メディアをとりまく環境そのものを、制作者グループの社会的結合のあり方や情報ネットワークなどの社会的背景をふくめて、実証的に検証する必要がある。

そのため、2011年3月に、ハンブルク社会研究所の文書館、およびベルリン自由大学付属APO文書館に、計3週間滞在し、一次史料の調査・収集を実施した。具体的には、1960年代末～1970年代前半の時期に、ハンブルクと西ベルリン、および英米圏の若者によって制作された新聞・雑誌の調査、両者の比較、若者メディアの制作者の人的ネットワーク、外部の社会運動やジャーナリストとの交渉、編集方針やコンセプトをめぐる議論などについて史料の閲覧と収集をおこなった。

本研究が対象とする西ベルリンやハンブルクといった都市は、既に60年代初頭から、新しい文化潮流・拠点の数多く誕生しており、英米圏の若者の消費文化と対抗文化運動の窓口でもあった。両都市の若者のメディア活動は、このような既存のマスメディアやジャーナリストとの交流、消費産業との相互の影響関係のなかで、おこなわれてきた。今回の調査では、特に、同時代の社会運動の展開と青少年の対抗文化運動の人的・文化交流に注目し、

アメリカ文化の受容がおこなわれた同時代の「場」と、当時の西ドイツの若者をとりまく文化的なコンテクストのなかで、アメリカの対抗文化運動が西ドイツのオールタナティヴ・メディアの形成におよぼした影響力の分析をおこなった。

【結論・考察】

上記の調査をつうじて、以下の点が明らかになった。学生運動期(1967～1970年)の若者の対抗メディア運動は、当初、シュプリンガー出版社に対するメディア批判として構想され、共和主義クラブや学生組織によって開始された。しかし、抗議運動の規模が拡大するにつれて、次第に狭義の政治運動やメディア批判から拡散し、同時代の青少年の対抗文化運動による目的や概念の流用、新たな青少年サブカルチャーとの融合が見られるようになる。このような社会運動と若者対抗メディアの両者が融合する傾向は、ポスト学生運動期にあたる1970年代のオールタナティヴ運動においてより顕著になり、新たなライフスタイルを模索する多様な運動と潮流の結節点として、これらのオールタナティヴ・メディアが機能してゆく。

その際、同時代のアメリカの対抗文化運動、および青少年によるメディア活動は、当時の西ドイツには存在しない新しいメディアと文化の参照枠として、対抗文化運動や社会運動、政治運動など複数の潮流を媒介し、まとめる重要な触媒となった。他方で、従来の学生新聞・雑誌に顕著に見られた教養主義的な学生文化の伝統を相対化する意味でも、アメリカ文化は重大な影響を及ぼしたと考えられる。

今後は、引きつづきアメリカのソフトパワーの影響力を検討するために、当該時期の日独の青少年文化の形成にあてた、アメリカのコミックスの文化的・社会的機能に焦点をあてて、比較検討をおこなってゆきたいと考えている。